

作成 1995 年 06 月 29 日

改訂 2021 年 07 月 01 日

# 安全データシート (SDS)

## 1、製品及び会社情報

製品名 : 二水塩化カルシウム (ロードクリーン)  
 会社名 : 讃岐化成株式会社  
 住所 : 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁 2 番地 4  
 担当部門 : 化学品 販売企画部  
 電話番号 : 0877-49-3332  
 F A X 番号 : 0877-49-2213  
 緊急連絡先 : 0877-49-3332  
 用途 : 融雪剤、防塵剤、冷却媒体(ブライン)、吸湿剤、  
 排水処理剤、揮発促進剤、等 各種工業用

## 2、危険有害性の要約

### G H S 分類

物理化学的危険性	: 可燃性固体	区分外
	: 自然発火性固体	区分外
	: 自己発熱性化学品	区分外
健康に対する有害性	: 急性毒性 (経口)	区分 4
	: 急性毒性 (経皮)	区分外
	: 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
	: 特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分 3 (気道刺激性)
	: 特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	区分 2
環境に対する有害性	: 水生毒性 (急性)	区分外
	: 水生毒性 (慢性)	区分外

(注) 記載なき GHS 分類区分 : 分類対象外/分類できない

### G H S ラベル要素

#### 絵表示又はシンボル



注意喚起語	: 危険
危険有害性情報	: 飲み込むと有害 重篤な眼の損傷 呼吸器への刺激のおそれ 長期または反復暴露による血液の障害のおそれ
注意書 安全対策	: 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと : 屋外または換気のよい場所でのみしようすること。 : この製品を使用するときは、飲食及び喫煙をしない。 : 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面マスクなどを着用する。 : 取扱い後はよく手を洗う。

- 救急処置 : 飲み込んだ場合、口をすすぐ。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。  
 : 眼に入った場合、流水で数分間洗い流す。  
 : コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。外した後も洗浄を続ける。医師の処置を受ける。  
 : 皮膚に付着した場合、汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。  
 : 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- 保管 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
 酸化性物質と一緒に保管しないこと。
- 破棄 : 内容物や容器を、国際、国、都道府県、市町村の規則に従って破棄すること。

### 3、組成、成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 単一製品  
 化学名 : 塩化カルシウム (2 水塩)  
 成分及び含有量 : 塩化カルシウム 72.0%以上  
 化学式 :  $\text{CaCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$   
 CAS No. : 10035-04-8  
 TSCA登録の有無 : 有り  
 EINECS No. : 233-140-8  
 化審法番号 : 1-176(塩化カルシウム)  
 安衛法番号 : 公表化学物質

### 4、応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、水でうがいをする。  
 痛みがある場合は、医師に相談する。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。痛みがある場合、  
 若しくは皮膚に刺激がある場合は、医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに流水で15分間以上洗い流し、眼科医の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水を飲ませ、直ちに医師の手当てを受けさせる。

### 5、火災時の処理

塩化カルシウム自体は不燃物である。

- 消火方法 : (周辺火災の場合)速やかに充填袋を安全な場所に移す。  
 (着火した場合)不燃性である。  
 (消化剤)当該物質を巻き込んだ周辺の火災に適切な消化剤を使用すること。

### 6、漏出時の処置

- 人体に対する注意事項 : 皮膚に付着しないよう気をつける。  
 作業の際は、保護手袋、保護眼鏡、防塵マスクを着用して行う。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に多量に流れ込むと生態系に影響を与える可能性がある。
- 除去方法 少量の場合 : 多量の水で洗い流すか、拭き取る。  
 多量の場合 : 固体のまま集め回収した後、多量の水で洗い流す。

### 7、取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い

- 技術的対策 : 保護手袋、保護眼鏡、防塵マスクを着用する。  
 粉塵がたたないように排気等を行う。
- 注意事項 : 皮膚、目等への接触を避ける。  
 作業の後は、手、顔等を洗う。
- 安全取扱い注意事項 : 弱アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

## 保管

## 適切な保管条件

技術的対策 : 直射日光の当たらない湿気の少ない場所に保管する。  
高温になる場所は避ける。袋を開封後は速やかに使用し、  
保管をする場合は包装容器を密閉して収納する。

混触危険物質 : 酸と離して貯蔵する。

容器包装材料 : 樹脂製の包装容器に保管する。

## 8、暴露防止及び保護措置

設備対策 : 法規上の規制はないが、粉塵がひどい場合は排気設備を設ける。

管理濃度 : 設定されていない。

許容濃度 : 日本産業衛生学会 記載なし

ACGIH 記載なし

## 保護具

呼吸用保護具 : 防塵マスク

手の保護具 : 保護手袋

目の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具 : 保護手袋、保護長靴、保護衣（材質は特定しないが長袖）

## 9、物理的及び化学的性質

## 物理的状态

形状 : 固体（粒状、フレーク状及び粉状）

色 : 白色

臭い : 無臭

PH : 8~10（20℃Be'）

## 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

沸点 : 1600℃以上（無水塩）

融点 : 176℃（2水塩）、772℃（無水塩）

分子量 : 147.02（2水塩）、110.98（無水塩）

密度 : 1.85 g/cm<sup>3</sup>（25℃、2水塩）、2.17 g/cm<sup>3</sup>（無水塩）

溶解性 : 水、エタノールに可溶。  
水 37.3g/100g（0℃） 42.7g/100g（20℃） 61.4g/100g（100℃）

溶解熱 : -285 J/g（-68cal/g）

粘度 : 3.6×10<sup>-3</sup>Pa·s（30%水溶液，20℃）

5.1×10<sup>-3</sup>Pa·s（35%水溶液，20℃）

## 10、安定性及び反応性

安定性 : 密閉で常温下では長期間において化学的に安定である。

空気中では、吸湿して潮解する。

反応性 : 液がアルカリ性の場合、酸と反応する。

強アルカリと反応して水酸化カルシウムを生じる。

避けるべき条件 : 粉塵の拡散。湿気を避ける。

危険有害な分解生成物 : 該当なし

## 11、有害性情報

急性毒性 : 経口 ウサギ LD<sub>50</sub> 1000 mg/kg（2水塩）（LD<sub>50</sub> : 50%致死量 Lethal Dose - 50%）  
ラット LD<sub>50</sub> 1000 mg/kg マウス LD<sub>50</sub> 1940 mg/kg

: 静脈 ラット MLD 168.7 mg/kg

モルモット MLD 150 mg/kg

局所効果 : 皮膚への刺激はない。人によってはかぶれを生じることがある。

眼に入ると痛みを感じる。

変異原性 : Ames 試験 陰性

発癌物質分類	: O S H A	記載なし
	N T P	記載なし
	I A R C	記載なし
	日本産業衛生学会	記載なし

## 1 2、環境影響情報

生態毒性 : 魚類、藻類、甲殻類のいずれの試験でも LD/CE<sub>50</sub> が 100mg/L 以上 (SIDE 2002) であることから、急性有害性、長期間有害性に関して区分外とした。

植物への影響 : 高濃度溶液が直接植物に触れると、成長障害を起こすことがある。

残留性・分解性 : 情報なし

土壌中の移動性 : 情報なし

オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

他の有害影響 : 情報なし

## 1 3、廃棄上の注意

廃棄についての法的規制はない。

残余廃棄物 : 大量の水で希釈して廃棄する。(溶液がアルカリ性を示す場合は中和後放流する。) 大量の場合には、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器・包装 : 容器は水洗いをした後、適切な廃棄方法をとる。

## 1 4、輸送上の注意

国際規制 : 危険物に該当しない

国連分類 : 危険物に該当しない

国連番号 : 危険物に該当しない

国内規制 陸上輸送 : 危険物に該当しない

海上輸送 : 危険物に該当しない

航空輸送 : 危険物に該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件 :

- 1) 荷役中の取扱いは慎重にし、落下、衝撃、引きずり等により包装容器を傷め、内容物を露出させてはならない。
- 2) 運送中は直射日光や雨水の浸透を防止する為の被覆等をするとともに、包装容器が転倒しないように積載する。

## 1 5、適用法令

食品衛生法 : (食品添加物は該当)

毒物及び劇物取締法 : 毒劇物に該当しない

労働安全衛生法 : 通知対象物に該当しない

化学物質管理促進法 : 指定化学物質に該当しない

P R T R 法 : 該当しない

## 1 6、その他の情報

引用文献

1) 日本化学会編, 改訂四版 化学便覧基礎編, 丸善株式会社 (1993)

2) NITE 総合検索 (2016)

GHS 分類結果 (Access on June 2016, 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE)

3) OECD SIDS 検索 (2016), (Access on July. 2016, eChemPortal OECD)

4) SIDE(2002), (OECD:SIDS レポート「SIDS Initial Assessment Report Oct.2002」)

記載内容の取扱い

- ・ 本データシートは、化学製品の工業的な一般的取扱いに際しての安全な取扱いについて最新の情報を集めたものですが、万全ではありません。
- ・ 新たな情報を入手した場合は追加または改訂されることがあります。
- ・ 記載の注意事項は通常取扱いを対象とした情報提供であり、必ずしも安全性を保証するものではありません。
- ・ 本製品に他の化学製品を混合したり特殊な条件で使用するときは、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。